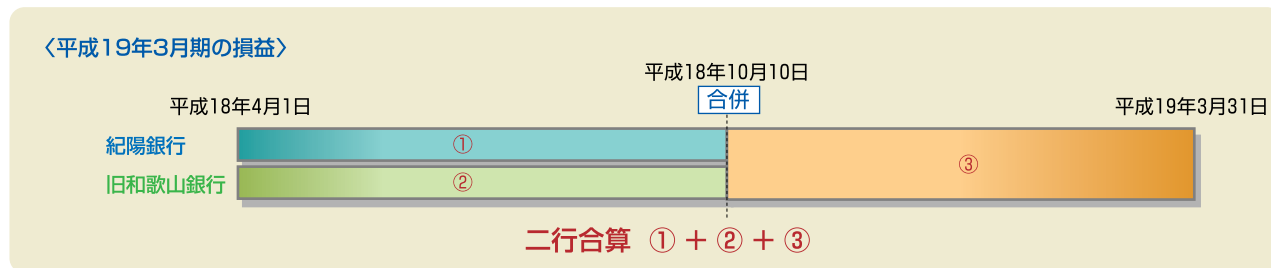


業績ハイライト ～紀陽銀行単体～

紀陽銀行と旧和歌山銀行は平成18年10月に合併したため、平成19年3月期における紀陽銀行の単体計数は、合併前の旧和歌山銀行の計数が反映されておりません。このため、平成19年3月期の損益については、二行合算による計数を用いております。



損益面

(単位:億円)

	平成19年3月期 実績	平成20年3月期 実績	前期比
業務粗利益	553	590	+37
資金利益	507	517	+10
役務取引等利益	64	66	+2
その他業務利益	▲17	6	+23
経費(▲)	373	364	▲9
一般貸倒引当金繰入額(▲) ①	▲14	10	+24
業務純益	195	216	+21
コア業務純益	183	221	+38
臨時損益	▲101	▲99	+2
不良債権処理額(▲) ②	110	92	▲18
株式関係損益	▲8	▲25	▲17
その他臨時損益	17	19	+2
経常利益	93	116	+23
特別損益	12	▲33	▲45
うち 償却債権取立益 ③	41	26	▲15
うち 減損損失(▲)	26	2	▲24
うち 親会社株式売却損(▲)	-	51	+51
法人税等調整額(▲)	18	▲5	▲23
当期純利益	84	88	+4
与信費用 ① + ②	95	103	+8
実質与信費用 ① + ② - ③	54	76	+22

(注) 1. 金額は単位未満を切り捨てて表示
2. (▲)は損失項目
3. 19年3月期は二行合算ベース

銀行の本来業務の収益を表すコア業務純益は、前期比38億円増加し、221億円となりました。これは、営業体制の強化により預金・貸出金残高が大きく伸びたことに加え、19年3月に有価証券ポートフォリオの見直しを行い外貨建て証券を大幅に売却したことにより、年間を通じて外貨調達コストが大きく削減されたことなどが要因であります。また、役務取引等利益も個人年金保険等の販売が伸びたことにより、秋以降の投資環境の悪化による投資信託販売の低迷をカバーし、さらに合併による効率化の効果として経費が前期比9億円減少いたしました。

与信費用につきましては、事業再生や経営改善支援への取り組み、不良債権の最終処理などに加え、回復基調にあった景況感に変化がでてきましたこと等から、前期比8億円増加の103億円となりました。

これらの結果、経常利益は前期比23億円増加し116億円、当期純利益は前期比4億円増加し88億円となりました。全般的に好調な中、当期純利益が前期比4億円増加し88億円にとどまりましたのは、親会社株式売却損51億円を特別損失として計上したことによるものです。なお、親会社株式売却損は、紀陽ホールディングスの連結損益には影響を与えません。



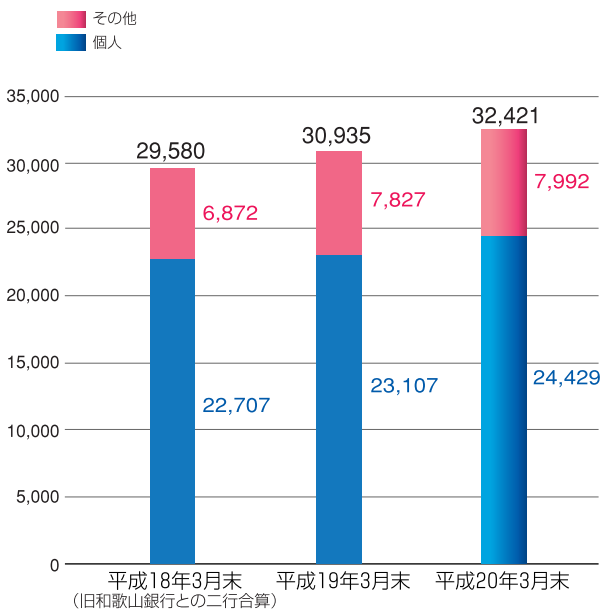
海南駅前支店(海南市)

預金等・預かり資産、貸出金

お客様の多様なニーズにお応えするため、営業人員の増加や個人のお客様専用店舗の設置をすすめた結果、預金等残高は前期比1,486億円増加し3兆2,421億円、預かり資産残高については、前期比373億円増加し3,821億円となりました。また、より地域に密着した営業活動を行い、営業体制の強化や事業性のお客様専用店舗の設置等をすすめた結果、貸出金残高は和歌山県、大阪府下とも増加し、前期比1,611億円増加の2兆2,725億円となりました。ローン残高についても、前期比527億円増加の7,340億円となりました。

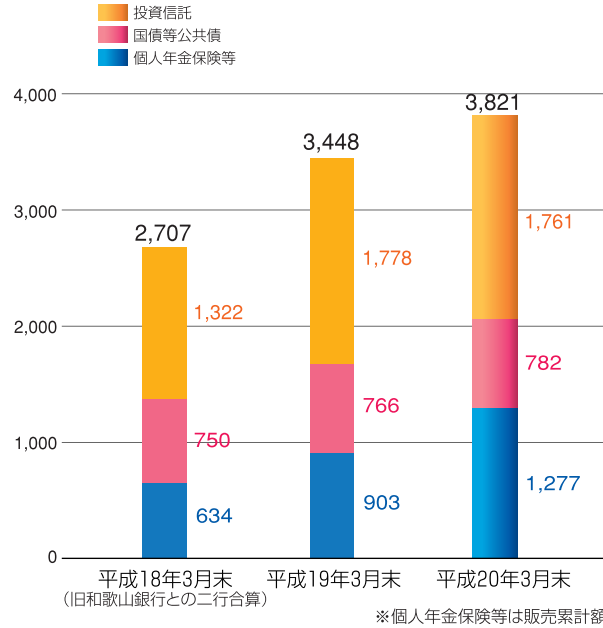
■預金等残高の推移

(単位:億円)



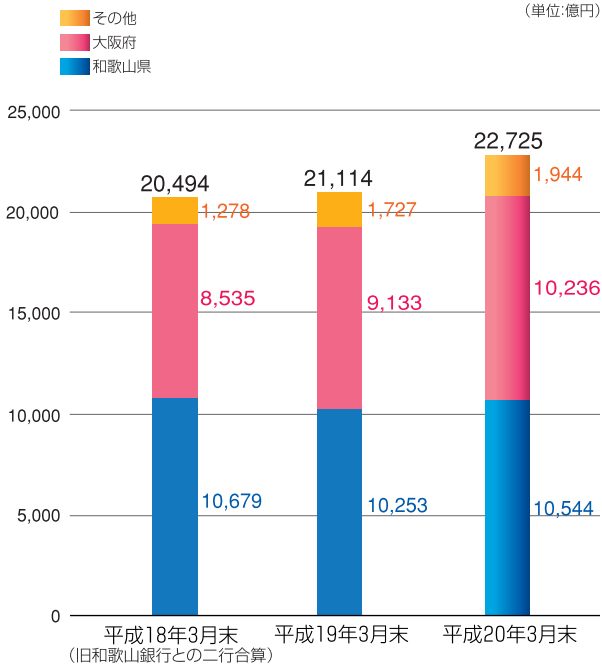
■預かり資産残高の推移

(単位:億円)



■貸出金残高の推移

(単位:億円)



■ローン残高の推移

(単位:億円)

